

## 第3回徳島市水道ビジョン2019フォローアップ会議 議事録

開催日時：令和4年11月24日（木） 午前9時30分から

開催場所：ホテル千秋閣 6階 孔雀の間

出席者：委員5人、上下水道局7人、事務局5人

会議内容：

1 開会

2 議事

(1) 施策体系目標「持続」

(2) 徳島市水道ビジョン2019フォローアップまとめ

3 事務連絡

(1) 今後の予定について

(2) その他

4 上下水道局理事 あいさつ

5 閉会

〈配付資料〉

- ・ 議事次第
- ・ 資料1 徳島市水道ビジョン2019フォローアップ（概要版）
- ・ 資料2 徳島市水道ビジョン2019水道事業ガイドライン業務指標実績値
- ・ 資料3 水道の決算について
- ・ 資料4 財政収支
- ・ 資料5 徳島市水道ビジョン2019フォローアップ（草案）
- ・ 資料6 第2回徳島市水道ビジョン2019フォローアップ会議議事録

## 開会

(事務局)

## 資料確認・会議公開について

(事務局)

## 議事予定について

(事務局)

## 議事開始

(委員長)

## 施策体系目標「持続」について

(事務局)

## 委員長

では、以上、「持続」について、何かご意見等はございますか。

## C 委員

効率的な事業運営で「広域化の検討」という話がありましたが、今聞いた限りでは、徳島県の「水道広域連携検討会」に参加して協議しているとのことですが、もし、現状で徳島市としての方針や「このような方針で考えていきたい」等というのがあれば教えていただきたい。現状、どのような考えなのか教えていただきたい。

## 経営企画課長

水道事業においては、管路をはじめとする水道施設の老朽化、耐震性の不足、人口減少による料金収入の減、少子化に伴う生産年齢人口の減少による職員確保の難といった諸課題に直面しております。国民生活に密着した重要なインフラである水道の持続性を高めるため、経営基盤の強化や施設の強靱化、住民サービスの向上に向けた取組が喫緊の課題となっております。

しかし、全国の水道事業体においては、給水人口が5万人以下の小規模事業体が全体の約70%を占めており、単独で基盤強化等を図ることは、難しい状況であります。

このため、老朽化施設の更新・耐震化を実施するのに必要な資金と人材の確保といった課題に対する有効な対策手段の一つとして広域化の議論がなされていると考えております。

広域化の取組については、県が県内市町村の広域連携のあり方について検討するため、平成29年3月に「水道事業のあり方研究会」を発足させ、県下の広域連携の可能性に

についての検討を行い、令和元年 7 月に新たに「水道広域連携検討会」が発足し、県内を東部・南部・西部の 3 ブロックに分け、令和元年度より発展的広域化への取組みの一つといたしまして物品の共同購入を検討し、令和 3 年度より発展的広域化への取組みの一つとして物品の共同購入、水道用薬品の購入を開始しました。参加事業体といたしましては、徳島市・鳴門市・小松島市・松茂町・北島町・三好市の計 6 事業体となっております。

来年度以降についてはシステムの共同化などの新たな広域化に向けて考えております。以上です。

#### C 委員

ありがとうございました。広域化につながるようなところは、積極的にできるところからやっつけていこうという方針で取り組まれているということでしょうか。

#### 経営企画課長

そうです。

#### C 委員

わかりました。ありがとうございます。

#### 副委員長

表現の方法で気になるところがあります。例えば、3. 1 (2) 「組織・人員体制」の「改善の検討」「～より豊富な知識の蓄積が課題となっています。」で、終わっているのが気になります。3. 2 (3) 財源確保策のところも「～課題があることが分かりました」で終わっています。「改善の検討」ですので、その課題に対する対策方法というのをもう一歩先まで考えて書いていただけたらと思います。

#### 委員長

大事なご指摘だと思います。よろしくお願いします。

#### 経営企画課長

副委員長のご指摘があった「改善の検討」の箇所につきまして見直しして、対策方法を記載し、修正したいと思います。

#### 委員長

どのように修正するかアイデアはあるのですか。

## 理事

ただいまの副委員長のご指摘の「組織・人員体制」については、職員数が減少しているということで「課題の検討」といいながら、将来の事業の進め方に課題があるということで、記載が終わっているというご指摘だと思います。

職員数の減少につきましては、公営企業という立場からは一定の適切な職員数にする必要があると思います。一方、事業を継続していくためには、こういった採用計画にするか検討しなければならないと思います。

事業については、職員が行うべきコア業務、それに準ずる準コア業務、定型的な業務の洗い出しを行い、定型業務については、民間の力を借りるといいうわゆる官民連携という形で今後は進めて行くべきと考えております。

## 副委員長

豊富な知識が蓄積されるような人員配置をされるというような回答であったかと思いますが、それであれば、そのような形で「改善の検討」に記載していただきたい。

## B 委員

3. 3 「お客様サービスの向上」の中の(1)「広報の充実」についてです。現時点では、ホームページのみということでしょうか。SNSについては資料5の39ページに「～SNSを利用するなど～広報手段について検討します」とあるのですが、SNSについては徳島市全体ではあると思うのですが、上下水道局としては、どうなっているのかというのが知りたいです。

検討段階であれば時間がかかるので、広報紙であれば、InstagramでもTwitterでもURLを載せて「ここから見るができる」と発信するのが良いと思います。

また、いざというとき、地震が起きたときなどに給水箇所などをホームページから見るのでは間に合わないの、公式ツイッターで発信する等も必要だと思います。

「検討します」ではなく、いまからでもやっていただきたいのですが、いかがでしょうか。

## 経営企画課長

現在、YouTube、Facebook、Twitter など具体的な取組については行ってはませんが、Twitterについては震災時において被災地域の自治体が発信する情報にTwitter利用者の間で関心が高くなり震災前と比べフォロワーが急増したことで関心の高さがうかがわれました。

しかし、同時にTwitterを通じて震災デマ情報の悪質なツイートが数多く出現し、打ち消し作業をするのが課題の一つとなっています。

局としては引き続き活用の方向について検討しているところであり、早めの実現を

図っているところです。

## B 委員

どうしても、Webサイトにたどり着くのに時間がかかるので、幅広い世代の方に伝えたいと思うと、SNSは有効だと思いますので、検討いただけたらと思いました。

以上です。

## 委員長

SNSについては、何か起こってからやりだすと混乱が起きるので、あまり良くないと思うのですが、平時からコミュニケーションをとっていれば、信頼関係ができて、「このようなときはこうしますよ」というのを伝えておけば、何か災害があったときも速やかに行動ができるので、あまりそのような混乱が起きることもないと思います。

何か起こったときにバタバタするから、デマが起こったりする。だから今からやったらいいと思います。

## 経営企画課長

来年度に向けて、進めたいと思います。

## 委員長

期限をつけてやってください。他に何かございませんか。

## A 委員

広報の充実ということなのですが、「啓発活動の方法について検討する」とありますが、(3.3(1)広報の充実「改善の検討」)例えば防災訓練をしたときに、消防車や地震体験車が来て、子供に体験させることがあります。一方、給水車は、災害が起こったとき、ニュース等で、水をもらう映像を見たことがあるのですが、目の前では見たことがありません。例えば、訓練などに給水車を派遣して子供たちに体験させるといったようなことなどはやっていないのでしょうか。

## 総務課長

給水タンク車の派遣は行っていないのですが、防災訓練については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていました、徳島市が主催しております、地域参加型防災訓練が再開され、今年度2回開催されます。

1回目は、すでに開催し、令和4年10月30日に千松小学校で、徳島市危機管理課、消防局、上下水道局等が参加しました。そこには給水タンク車を用意し、実際に給水体験をしていただいたり、説明を聞いていただいたりしました。次回は令和4年

1 2月4日に内町小学校で参加型の訓練を行う予定ですので、そこでも同様に給水タンク車を用いた体験をしていただく予定です。

#### A 委員

もし、要望したらきていただける可能性があるということですか。

#### 総務課長

今回の訓練は、上下水道局単独ではなく、徳島市全体の防災訓練として行うものですので、（開催等の要望の場合は）徳島市に要望していただくことになろうかと思えます。

#### A 委員

わかりました。ありがとうございます。

#### 委員長

水道というのはあまり知ってもらえないですね。水といっても、ペットボトルの水と何が違うのかという話になるのです。A委員がおっしゃるように、給水車というのは、水道の出前とかで見ていただくのもいいと思いますし、ニュースとかで、災害時には、給水車が来てくれて助けてくれるといういいイメージがついているので、アピールできるものなので、是非、積極的に。実際にたくさん水を配ったりしなくてもいいと思うんですけど、給水タンク車を見せて、「災害の時にはこうしますよ」と説明して、併せてこういう水道事業のこともお知らせすると。

非常にA委員の意見良いと思います。

#### A 委員

ありがとうございます。私の地元の小学校も規模が小さいですが、消防の地震体験車などが来たときに小学生と一緒に訓練するので、提案しました。

#### 委員長

私が防災の学習会で水道の話をするときに、給水車は来てくれるけど、市民は何を持って給水タンク車まで行けばいいのか考えていますか、という話をします。ポリタンクがあればいいのですが、折りたたみのものもあれば、キャリー付きのものもありますよね。たくさん持って帰りたいけれど、水10は1kgあるので帰りはそれをマンション10階だったら持ってあがらなくてはならない。そんな話とあわせて水道と災害について啓発するのも良いのではないのでしょうか。積極的に考えてみてください。

## 総務課長

今後は上下水道局単独でも訓練ができるよう、検討して参ります。

災害時には、水というのは命に関わることでありますので、備蓄やどのような道具を備えるべきか、など説明する必要があるもので、今後検討していきたいと思っております。

## 委員長

給水車は、家の前まで来てくれるわけではなく、給水所まで1kmくらい歩く必要があり、遠い場合があるので、道具なども確保しつつ、考えてもらういい機会になると思うので、良い提案だと思います。

## C 委員

上下水道局で、小学校の出前講座をしていると思っております。例えば、その日を参観日に合わせれば、保護者にも啓発できるようになります。給水タンク車などたくさん用意をして、仕事が増えるような手間をかけるのではなく、複数の機会をうまく捉えてより効率的に広報してもらえばと思っておりますので、よろしくお願ひします。

別にもう一点お聞きしたいのですが、ホームページの件について、実際はどのくらいの閲覧数があるのかわかりますか。

## 経営企画課長

閲覧数については、資料がないため回答ができないのですが、徳島市のホームページ内に上下水道局のホームページがあり、正直、市のホームページをみるついで、の方が多く、上下水道局から市民に発信する力は弱いと感じております。

先ほど、委員からのご指摘にもあったように、新しい試みを検討し、もっと多くの市民の方に閲覧していただけるようなホームページ作っていきたくと考えております。

## C 委員

ありがとうございます。ホームページやSNSといった試みは、他都市も共通の取り組みをしていると思っております。他の都市でうまく運用しているところもあると思っております。そのようなところを、取り入れるなどして参考にしながら、少しでも良くしていくようにしていただきたい。なかなか、ゼロから立ち上げるというのは大変だと思いますので、取り入れられるものは積極的に導入して、徳島市独自のものもいれながら作っていただきたいと思っております。以上です。

## 経営企画課長

貴重な御意見ありがとうございました。

## B 委員

先ほどの広報活動について、補足なのですが、給水車を出したときや、出前講座をしたときなどの写真に効果のあるハッシュタグをつけて、SNSで発信して、そこにホームページのURLを貼り付けておけば効果的に見てもらえるのではということ。

徳島市は「水都とくしま」というので、発信しているのですが、上下水道局も「水」に関連して、「水都とくしま」いれてみるとか、皆さんの負担とならないように少しずつ発信していったらいいかと思いました。以上です。

## 経営企画課長

ありがとうございました。

## 委員長

広報については、いろいろ具体的な意見がでましたので、どんどん取り組んでもらいたいと思います。

私は、BCPのことで、広域化のことがずっと気になっておりまして、人、施設、カネに限られた中で、どのように持続、強靱化していくかと考えると広域的に協力して行っていただきたいと思っております。

例えば、徳島市の第十浄水場が立ちゆかなくなった場合に、その周辺のところから助けをもらうようなそういう意味での広域化、施設の広域化があると思います。今でしたら、国も補助をつけて推進しているので、その機会を逃さずに積極的に。消毒液の共同購入だけでなく、行っていただきたい。

徳島県内ですと徳島市が大きいので、是非、徳島市が旗を振って周りを呼びかけるような形が良いかと思うのですが、いかがでしょうか。

## 理事

委員長がおっしゃるとおりでございます。

広域化については、先ほど経営企画課長から説明があったとおり、県が中心となって「水道広域連携検討会」を行っています。この検討会には、私も毎回出席をしております。

徳島市も二十数万人の給水人口で全国的には、大きな事業体であるとは考えておりません。この我々の規模で将来にわたって単独で事業が成り立つのか、将来的な人口減少が目に見えているこの状況下では厳しいということで、スケールメリットを生かした広域的な連携は必要であると認識をし、発言をさせていただいています。

一方で市町村が中心となって事業をやってきた、徳島市の水道は「徳島市民のための水道」となっているのは事実です。このため、広域化の場合も、まずは徳島市民にとってメリットを感じていただけるということが前提となります。このようなことも

含めて、できることから広域的な連携を進めて参りたいということで、まずは、薬品の共同購入を始めました。将来的には、さらに進んだ連携を行っていこうということで検討を進めております。

総務省は、平成31年1月25日に都道府県に対して「水道広域化推進プラン」を令和4年度末までに策定することを要請しています。こちらについても県内市町村が参加して、徳島県が策定を進めております。今後徳島市としてもこのプランに沿って、将来に向けて広域的な取り組みを検討していきたいと考えております。

以上です。

#### 委員長

ありがとうございます。広域化については、課題解決のための一つの方法として、使っていただきたいと考えています。課題がたくさん山積しているという中で広域化がどのように有効なのか検討して紹介していただきたいと思っています。意味がないのであれば、必要ではないのですが、私は、災害のときには非常に意味があると思いますし、ヒトやお金に関してもメリットは出てくると思っているのですが、吟味して「徳島県の水道ビジョン」「徳島市の水道ビジョン」としていただきたい。

事例としては、鳴門市と北島町の共同の浄水場の建設もありましたし、香川県は県一つでやっているのので、できないことはないと思います。その中でどのようにやっていくかを是非、理事がいらっしゃる間にやっていただきたい。

#### 理事

ありがとうございます。

#### 委員長

はい。では、これ以外に御意見がないようでしたら、次の議事に移りたいと思います。

次の「財政収支」について説明をお願いします。

#### 「財政収支」について

(経営企画課長)

#### 副委員長

厳しい状況であることがよくわかりました。このままいくわけにはいかないと思うのですが、シミュレーションで例えば、料金をこれくらいあげたら、経営としては、維持していけますとか、そのような検討はしているのでしょうか。

## 経営企画課長

現状具体的な料金値上げのシミュレーションまでは、行っておりません。このままの状況ですと令和10年度には資金ショートが起こることが予測されますので、前回は平成21年度に改定しましたが、その前に前回と同率くらいの料金改定を行った場合のシミュレーションを行う予定です。

## 副委員長

シミュレーションは必要ですね。それをいろいろ行った上で、過程を示して「もちろん経営努力はするのですが、これくらい改定しないと維持できない」というのをしっかり計算して、市民の皆さんにご理解いただけるよう説明していただきたいと思います。

## C 委員

金利や資材の高騰だとか、そのような要素を見込んでシミュレーションはされているということですが、1種類だけですと・・・数値が悪いめの想定と、そうではない想定と、3、4パターンくらいシミュレーションしてみると、料金改定の時期も違ってくるのではないかと思います。現状は、現在の金利状況でシミュレーションのみということでしょうか。

## 経営企画課長

借入金額の企業債ですが、1%前後くらいで借り入れするようなシミュレーションをしています。借入金もですがより深刻なのは、給水収益の減少です。先ほどご説明させていただきましたが、水量の減少以上に収益が減少していく傾向になっています。世帯数の減少というのも大きな問題となっています。徳島市の料金体系は、逦増料金となっており、使用水量が多い、いわゆる大口使用者が地下水を使うようになる等の問題も生じています。これらを踏まえ、逦増料金、基本料金の見直しも含めて次回の料金改定に臨みたいと考えています。

## C 委員

ありがとうございます。施設利用率や稼働率を見るとまだ余力がある状況ですので、そのことを考えると大口使用者にも使ってもらえる体系なのだと思います。

そのような状況を踏まえて収入を増やしていく術を模索していただきたい。広告収入についても調査はしているようですが、そこから進んでいないようです。広告媒体やネーミングライツなど、収入増加策についてはより工夫していかなければならないと思います。他の事業体の例も参考にしながら取り組んでいただきたい。

## 経営企画課長

ありがとうございました。

## 理事

少し補足させていただきます。シミュレーションにつきましては、徳島市水道ビジョン2019策定時に将来に向けた経営戦略の中で50年先を見据えた予測を行っております。機械的におこなったそのシミュレーションの中で当時は、令和7年度に料金改定を設定しております。その際の改定率は10%でした。

経営戦略についても3年が経過しましたので、再来年度を目処に改定をしていく予定です。

このシミュレーションでは令和7年度に料金改定を行うこととなっておりますが、必ずしもその年度に改定を行うということではありません。しかし、このままではこの時期くらいに資金ショートが起こる可能性があるということ、経営企画課長の説明したとおり、当初の予測以上に給水収益が減少していますので、経費削減等をしながらできるだけ改定時期を遅らせたいという考えはあるのですが、総体的に検討は必要であることに違いないという状況です。

## 委員長

御意見はありませんか。

## A 委員

使用者としては、節電、節水ということで、電気、ガス、水道、こまめに消したりしているので申し訳ないのですが、目に見えて収益は減っていますよね。光熱費の中では、一番水道が安いですね。だから、（家計的には）もったいないんですけど、上げる時期がきているのであれば上げないといけないと思うのですが、どうでしょうか。

## 経営企画課長

まず、徳島市の料金水準を他都市と比較しますと、一般家庭で使用する平均的な水量の20トン使用時では県庁所在地47都市の中では、8番目に安く、四国四市では一番安い状態になっています。徳島県内では19都市中3番目に安くなっています。

前回料金改定をしたのが、平成22年4月で19.6%改定しています。その前の平成14年4月には、24.8%の改定率でした。前回と同じ19.6%の改定率ですと、現在の給水収益等からシミュレーションしますと5、6年くらいでまた経営が厳しくなると考えています。以上です。

## A 委員

分かりました。ありがとうございます。（水道事業の立場では）使った方がいいのかもしれませんが、消費者協会の立場からは「無駄をなくしましょう」ということで活動しています。いつも支払の時に「水道が一番安いな」と思って感謝しています。

## 委員長

他にありませんか。

## B 委員

商工会議所からの立場からですと、大口使用者、水道をたくさん使う業者の方にとっては水道の値上げは苦しい時期でもあるので、大変だという側面もございます。先ほど C 委員からもあったような、ネーミングライツとかそのようなものも使っていたきたいという点と一般的な感覚からするとやはり水というのは、限られた資源であるので、やはり節水しながら使います。大口使用者の商工会の方であれば、料金が上がればますます使わなくなります。ある程度の値上げは仕方ないと思います。その辺を打開していくにはどうするか、その現状を知っていただくというのも、先ほどの広報にもつながってくるのですが、少しずつ告知もしながら、みんなで考えていけるようにしていくべきではないかと思います。曖昧な意見で申し訳ないのですが、以上です。

## 経営企画課長

ありがとうございます。

## 委員長

現状を伝えていく意味でも先ほどの SNS は、来年度を待たずにしていくべきです。「今、こんな状況ですよ。」という。なかなかショッキングな例だと思うのですよ。水道が赤字になるかもしれないというのは、新聞記事になりやすいと思うんですが、もしそのようなことになったら、私たちの生活はどうなるのですか。

## 経営企画課長

一般的に申しますと、国から企業債という借り入れをするのですが、累積赤字が増えますと、簡単には企業債の借り入れができなくなります。国の承認、議会の承認が必要となりますので。事業を運営するのが難しくなります。当然、そこで建設改良、施設の更新が中断してしまうので、老朽化がどんどんひどくなるというように考えます。

## B 委員

徳島市って目の前に吉野川や多くの川が流れているので、「水でお金が足りなくなるなんて」「こんなに水が豊かなのに」というのが一般市民の感覚からするとあるかもしれないので、「いや、大変なんだ」ということを知っていただく必要があると思います。

平成6年に香川が渇水になったときも、徳島は大丈夫だったのですよね。なので、「徳島は水があって当たり前」という感覚がなんとなくあるので、赤字というのがピンとこないと思います。このギャップを埋めていくことが必要であると思います。

## 理事

御意見ありがとうございます。おっしゃるとおり徳島市には吉野川という大河があるということで、「水は心配ないでしょう」という市民の方の考え方はあると思います。確かに水源には恵まれておりますので、効率的な運用はできていると思います。ただ、それについても先ほどの説明にもあったように水道料金は、全国的にもかなり安い料金で抑えられているということで、収支を将来的に考えるとこの水道料金で、経営を続けていくのはかなり厳しいということでございます。残念ながらこの点を我々職員が市民の方に発信するのが、非常に弱いと、先ほどの広報の方でも話がございました。こういった非常に厳しい状況を市民の皆様にお知らせできていないことは、今回の会議で委員の皆様から御意見をいただいたということで、状況を発信し、皆様からの御意見を伺いながら進めるということを積極的に進めていこうと考えております。

## 委員長

やはりかなり厳しいということを念頭にみんなでやっていく必要があるということですね。

徳島の人って「水だけは」という思いもあると思います。他の大抵のことはあまり良くないという認識はあっても。だから「水も」ということは徳島の人にとってかなりショックであるのではないかと思います。

徳島市だけではなく、これは全県、全国的にこういう状況だと思いますので、うまく説明をして、みんなで水道を継続していく方法を考えていきたい。

シミュレーションも人口の話だけでなく、広域化の話とか、いろんなこともしっかり考えて「こういう選択肢もある」というのをしっかり見せていただきたいと思います。これは大切なターニングポイントになる議論なので、早く明日からでもSNSからはじめてほしいと思います。よろしくお願いします。

## 委員長

では、皆さん、いかがでしょうか。他に御意見がないようですので、「徳島市水道ビジョン2019フォローアップのまとめ」に移りたいと思います。

## 「徳島市水道ビジョン2019フォローアップのまとめ」について

(事務局)

## 委員長

全体を通して御意見はいかがでしょうか。

## A 委員

私は水道がない時代を経験しておりまして、結婚するときに洗濯機を買ったんですけど、水道がなくて、井戸から水をくんで・・・せっかく洗濯機買ったのに、というそんな時代でした。だから、ありがたさがよく分かります。10年前の東北の震災の時に、気仙沼に行きました。その時に一番最後に来たのが水道なんですね。私が言ったときには、まだ水道は来てなくて、「1人1日500mlペットボトル水で顔洗うのも歯をみがくのもしてください。」という形でした。だから、水、水道の大切さというのは、ひしひしと感じておりますので、この赤字になるシミュレーションをみると、「これが家計だったらどうなるのか」と思って。だから、大変だと思うのですが、水道がなかったら本当に困るので、値上げも仕方がないと思います。

## C 委員

徳島市の水道の置かれた状況がよく分かりました。やはり市民の皆様にご伝えることが一つの大きなポイントだと思います。リスクコミュニケーションという言葉がありますが、今そういうリスクがあることを認識していただいて、A委員のように納得して、安全で安心な水をこれからも使うためには必要なのだということを知っていただいて、値上げできるようにしていただくというのが大事なところだと思います。一方で事業の効率化だとか、収入をいかに増やしていこうかというところで、例えば水を広域化含めて他の自治体に融通することができれば、そこで収入を得られるかもしれませんし、経営戦略にも密接に関わってくると思いますので、引き続き、より良くあるための広域化なども進めていっていただきたいと思います。以上です。

## B 委員

とても勉強になりました。市民としては、やはり災害時に、水を安全、安心に供給してもらいたいという思いがあります。家の前が液状化したらどうなるのだろうと。被災しても給水していただいて、広報なども・・・これだけいろいろな仕事をしている

中で新しい広報を、という現場の人も大変かと思いますが、市民の方の反応が見られるのは有益だと思いますので是非取り組んでいただきたい。

「このように取り組んでいるから、安心、安全です」と伝え、理解していただくためにもお願いしたい。ただ、大口使用者など一部に負担がかかりすぎのも困るので、バランスを考慮して、料金の見直しにも取り組んでもらいたいと思います。

#### 委員長

私のほうからコメントさせていただきます。分かったら教えてほしいのですが。

フォローアップの評価と令和10年の目標という数値がでていますが、この数値は今まで通りのお金の使い方を続けていけばこの数値になるということですか。

#### 理事

財政収支計画につきましては、当然投資計画をみこんだ上での数値になっております。ただ、先ほど申し上げたとおり、給水収益の予想以上の減少に加え、経営戦略については、総務省から3～5年の間隔で改定を求められておりますので、3年経過した今から新たに経営戦略の改定をしていくところです。その中で新たな投資計画、財政計画を示すことができればと考えています。

#### 委員長

そうなれば、ここにいろいろな指標の目標値がありますが、その数字が変わってくるという可能性もあるということでしょうか。

#### 理事

現時点では、施設の利用については、考え直しが必要であると私自身は思っております。具体的には、更新基準年数を施設、管路を含めた構造物ですけれども、当初は全国的な数値で設定したところもあるかと思いますが、より詳細な設定が必要です。例えば、管路については布設場所によって更新基準年数が変わる、施設についても構造物の信頼性をどこまで見るのかといった詳細な形で検討した中で、改めて更新基準年数を考えていくと長寿命化といったこともできるのではないかと思います。そのような選択肢のなかで、合理的な設備投資を投資計画では考えていく必要があると思います。

#### 委員長

分かりました。長寿命化というキーワードが出ましたが、それはビジョンでも記載がありましたか。

## 理事

現ビジョンにも取り上げておりますが、改定ではそこをより詳細にして、長寿命化できる施設を増やすことで投資をできるだけ抑えていこうという狙いもございます。

## 委員長

そのような中でもいつも言わせていただくのですけれども、災害時のBCPをしっかりしていただきたい。

何が足らなくて、何を私たちが市民として備えておかなければならないのかということを示していただきたい。BCPについては「大丈夫ですよ」ということではなくて、「（上下水道局としてできることは）ここまでなので、あと足りない部分はみんなでなんとかしましょう」というメッセージもしっかりしていただきたい。

## 委員長

他いかがでしょうか。御意見はないようですので、議事はすべて終了いたしました。

## 事務局

事務連絡

## 理事

挨拶

## 委員長

閉会の挨拶。

最後にフォローアップの(案)について、令和という時代が感じられず、無機質であるため、市民に向けた挨拶などをいれてはどうかと思います。市民向けの言葉があればより、令和にはいつのフォローアップという感じがでると思います。